

伊豆縦貫自動車道新 I C 周辺(予定地)の地域振興のための提案

日本大学国際関係学部 文化伝承発信研究会

指導教員：宍戸学、松浦康世

参加学生：大槻佳奈、竹内信子、原田莉緒、
今村花菜子、小畑理子、倉石朱莉、
鈴木文乃、渡部舞海

1. 要約

河津町には、河津桜や河津七滝等の優れた観光資源があるものの、年々観光客の減少が続いている。一方で県東部地域は、伊豆半島ジオパークの世界ジオパーク認定や伊豆市において2020東京オリンピックの自転車競技が開催される等、国内外から注目が高まっている。こうした中、河津町の山間部においては、伊豆縦貫自動車道の河津IC(仮称)、逆川IC(仮称)の整備・開設が予定されており、これを契機に河津町の魅力を国内外に発信し、交流人口の拡大を図るために観光マップを作成した。

2. 研究の目的

2018年度から現地調査を開始し、2019年度には河津町の魅力の一つである「花」をテーマとした観光マップの原案を作成した。今年度は、観光マップの中で提案したモデルコースについて、実際にマップを利用してコースを回り、掲載情報の正確性と妥当性を検証するとともに、観光客、町役場、観光協会等の意見を集約し、より完成度の高いものに仕上げることを目標とした。

3. 研究の内容

2019年度に作成した観光マップ原案について、1) 記載内容に誤りがないかどうか、2) 記載事項は適切であるか、または魅力的なコースを示すのに十分な情報が載せられているかどうか、3) レイアウトやデザインは見やすいかどうかの3点について検証した。

(1) 記載内容の正確性

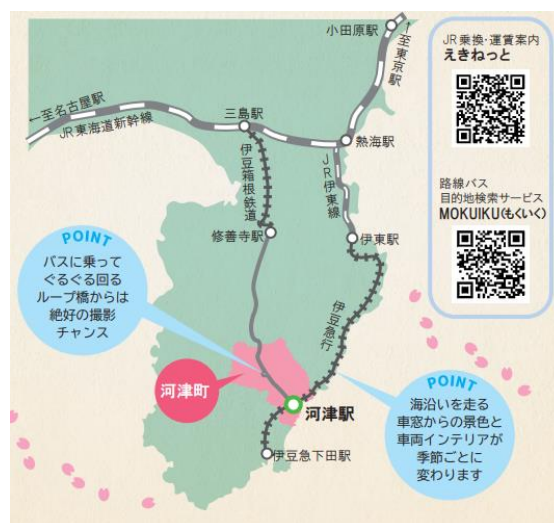
a. 施設の名称の記載方法

観光名所をインターネット検索ですると、サイトによって名称の記載方法が異なる場合がある。例えば、「踊子温泉会館」と「踊り子温泉会館」はどちらが正しいのかなど、サイトの作成者を確認して見分ける必要がある。今回の訪問では、こうした表記の方法を、実際に目で見て確かめることにした。

b. 移動の所要時間

このモデルコースは、利用者の対象を広げるために、自動車ではなく公共交通機関を活用して観光できるよう設定した。そのため、名所から名所へ移動する際にかかる時間は、記載情報の中でも最も重要なものである。作成したモデルコースが、日帰りでも無駄なく無理なく回れるコースであることを検証するため、現地調査では名所間の所要時間を計りながら移動した。

交通機関は、JR、伊豆急行線、伊豆箱根鉄道、東海バスの4種類があり、それぞれの会社のホームページで出発時刻や運賃等を検索したところ、各サイトに



入って時刻表を検索するのは旅行者にとって効率が悪いことに気付いた。そこで、電車については「JR乗換・運賃案内えきねっと」、バスについては「路線バス目的地検索サービスMOKUIKU」のQRコードを掲載することとした。実際に特定の名所間の移動を仮定して検索したところ、問題なく活用できた。

c. 観光名所や施設の情報

各施設の定休日、営業時間、料金などは利用者にとって有益な情報であり、マップにも掲載すべきものである。しかし、季節によって営業時間の変更されたり、臨時休業されたりすることもあるため、ホームページ等を公開している施設の情報に関しては、URLからQRコードを作成することにした。これにより紙面が節約され、より多くの情報が掲載できるようになった。また、現地調査の際の確認も省略することができた。

A 自然の中で心も体も癒されたいコース

2月-5月 February - May
河津七滝 ハイキング (約90分) → バス (18分) → 踊り子温泉会館 or 豊泉の足湯処 (20分) → かわづ カーネーション 見本園 (2分) → 川津 来宮神社

5月-12月 May - December
河津 パガテル公園 (20分) → 踊り子温泉会館 (5分)

●河津七滝ハイキング
伊豆半島ジオパークのジオサイトに指定されている河津七滝全てを巡るコースです。
所要時間……約80分
コース距離……約7km

(2) 記載内容の妥当性

a. 公共施設以外の店の情報

現地調査では、グループごとに手分けをして複数の料理店を訪問したが、紙面の関係上全ての店を掲載することができない。そのため、おすすめ情報として特定の店を紹介することの是非について検討した結果、同じ地域に店が一つしかない場合を除いて、なるべく店名は出さないこととした。

b. テーマとの関連性

右図の通り、モデルコースは「癒す、眺める、学ぶ、遊ぶ、食べる」という5つのテーマのうち隣接する2つのテーマを組み合わせA、B、C、D、Eの5つのコースを設定している。今回の研究では、それぞれのコースがテーマに合っているかどうかを再検討し、他に追加すべき場所があるかどうかについても調査した。その結果、新しい名所の発見もあったが、掲載する名所の数には変更を加えず、各名所のおすすめポイントを充実させることとした。



(3) デザインとレイアウト

a. 文字の色と書体

文字については、何よりも読みやすさが大切であるため、異なる書体を入れて試し印刷をしながら、項目ごとに書体を選択した。

説明文には最も見やすく親しみやすいと思われる丸ゴシック系の書体を選び、タイトルなどにはデザイン性のある特殊文字を選んだ。

文字の形や色によって印象が大きく変わるため、デザインのセンスを持ったプロのデザイナーの意見も聞きながら文字の書体と色を決定した。

更に、前述の5つのテーマを強調するために、コース表とコースマップの名所を色分けしてみたところ、名所の種類が認識しやすくなったばかりでなくマップ全体が明るい印象になった。



b. 写真の選択

観光マップの原案で選択したコースマップの写真は、ほとんどが人物の写っていないものであった。しかし、マップの裏表紙にはインスタグラムのハッシュタグ「かわづプロジェクト」と「日大国際」の文字を入れており、これが大学生らの手によって作成されたものであることをアピールしてもよいのではないかと考え、自分たちが写っている写真を掲載することにした。実際に現地を訪問して楽しんでいる様子を見てもらうことにより、同世代の人たちにも興味を持ってもらえるのではないかと考える。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

当初の計画は次の通りであった。

- | | | |
|-------|---------|--|
| 2020年 | 9月～10月 | 河津町役場や観光協会との話し合い
モデルコースの検証、および現地調査 (2回) |
| | 11月～12月 | 調査結果の報告、マップ記載内容についての話し合い
観光マップの修正 |
| 2021年 | 1月 | デザイナーと打ち合わせ
レイアウト調整、印刷
完成品の確認と折り作業、報告書作成 |

(2) 実際の内容

コロナの影響で活動期間が大きく制限され、計画の変更を余儀なくされた。10月下旬まで大学からの活動許可が下りなかったため、11月に話し合いを開始し、12月に現地訪問をすることとした。訪問回数も2回から1回に変更し、宿泊をやめて日帰りとしたため、訪問場所の営業時間と移動時間などの確認を慎重に行い、当日も時間を無駄にしないように心掛けて移動したところ、計画した場所は全て訪問することができた。その後、約1か月間で内容検討とデザイン修正を行い、2021年1月に予定通り印刷を発注することができた。

(3) 実績・成果と課題

活動期間の短縮があったものの、目標としていた観光マップ完成を実現することができたことは大きな成果であった。掲載事項については、現地調査の他、河津町役場や観光協会などの意見も聞きながら何度も記載内容を確認・修正し、ようやく問題なく活用できるものに仕上がった。

今年度の研究において、マップに大きな変更を加えた点があった。それは、「カーネーション見本園」の開園期間である。以前入手したある観光ガイドのチラシには「12月から5月まで」と書かれていたが、実際には1月までは閉園されており、2月にならないと見学できないことが判明した。「バガテル公園」のバラの見ごろが5月から11月であることから、「年間を通して花を楽しめる」というコンセプトで、1年をカーネーションとバラの2つの時期に分けてモデルコースを設定していたが、12月と1月が除外されたことで、そのコンセプトさえ変更せざるを得ないのではないかと思われた。しかし、花のイメージを持つ町であることには変わりなく、このマップはそのイメージを発信することを目的としているため、開園時期の記載を変更するにとどめて、マップのコンセプトは変更しないこととした。

12月から1月にかけてのオフシーズンでも、温泉やライトアップの他、河津町の魅力を挙げればきりが無い。こうしたオフシーズンの魅力についても別の形で紹介していくことが今後に向けての新たな課題となった。

(4) 今後の改善点や対策

今回作成した観光マップは主に国内に住む人を対象としているが、国際関係学部の学生ならではのグローバルな視点で国外に向けた発信も期待されている。この事業を契機に、河津町との交流を継続しながら、今後も様々な形で情報発信を続けていきたい。

5. 地域への提言

2018年度から3年間にわたり本研究を続ける中で、河津町役場企画調整課の方々との話し合いを始め、町長との面談、町民の方々とのワークショップなど、様々な機会を提供していただいた。そのような機会があるごとに、地域への提言として、大学生の視点からの率直な意見を述べさせていただいてきたが、どんな些細なことにも耳を傾けてくださった。

しかし、この研究を始めて河津町の様子に注目するようになると、河津町では既に様々な取組がされていることに気づかされた。企画調整課の方々には、こちらからの提案よりも更に先を見据え、観光だけでなく住みよい町としての魅力を発信していた。

6. 地域からの評価

今年度は活動期間が制限されたこともあり、十分な話し合いの機会を設けることはできなかったが、河津町役場の方々には常にこの研究を暖かい目で見守ってくださった。また、今年度は河津町観光協会の方とも情報を共有することができ、確認をとりながら研究が進められ、この3年間の成果をようやく「河津マップ」という形にすることができた。しかし、このマップを利用する人々からどのような評価が得られるかについてはまだわからない。今後もマップの効果を見守ると同時に、河津町訪問やイベント開催などを企画して、この事業を通して築いてきた河津町の方々との交流関係を維持していきたい。